

快適職場の形成因子に関する調査

田口豊郁 鹿島 訓

川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

(平成7年10月18日受理)

Investigation on Creating Factor of Comfortable Working Environment

Toyohiro TAGUCHI and Satoru KASHIMA

*Department of Medical Social Work
Faculty of Medical Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-01, Japan
(Accepted Oct. 18, 1995)*

Key words : amenity, comfortable working environment, industrial health,
Industrial social worker, Occupational safety and health consultant

はじめに

近年、我が国の労働環境、作業態様等が急速に変化しており、職場では、疲労、ストレスを感じる者が増えてきている。労働安全衛生法に新たに、「快適な職場環境の形成のための処置」に関する章が設けられた¹⁾。その中で、快適職場とは、仕事による疲労やストレスを感じることが少なく、いきいきと健康で働き続けることができる職場と位置づけられた。さらに快適職場を形成するために「快適職場指針」²⁾が公表された。

快適な作業環境を形成するための要因を知るために、「職場の快適性に関する調査」を実施した。岡山市内で開催された安全衛生関係の講習会の参加者147人を対象として、職場で不快、不満に思うことについて自由回答を求めた。回答

結果は「快適職場指針」の快適な作業環境の形成についての目標事項に分類できないものも多く、特に、人間関係に関する回答が多かった。職場の人間関係の問題を解決するための人的資源の必要性を認めた。

調査の対象および方法

1. 調査対象

岡山市内で開催された安全衛生関係の講習会の参加者（比較的、快適環境についての意識が高いと考えられる）147人（男性：129人，女性：18人）を対象として、1994年の夏に実施した。年齢（平均値±標準偏差）は、男性（36.8±10.4）歳，女性（40.3±10.7）歳，全体で（37.2±10.5）歳であった。参加者の職業は、製造業（鉄鋼業，化学工業等），サービス業等多岐にわたる工場労働者および事務作業員であった。その内訳は、

工場労働者：69人(36.2±9.7歳)，事務作業員：78人(38.1±10.8歳)であった。

2. 調査方法

“快適”と相反した意味の“不快，不愉快，不満”を職場の中から探し出せれば快適職場を考える上で大いに役に立つと考え，「職場の快適性に関する調査」と題して以下の質問をした。

【質問内容】日頃，仕事をしているときに，どのようなことに対して，“不快，不愉快，不満”を感じますか。どのようなことでも結構です。思いつくまま幾つでも書いてください——。

結 果

対象者147人から396項目の回答を得た。これらの回答を快適職場指針の快適な作業環境の形成についての目標(措置)事項²⁾に従い，①作業環境の管理，②作業方法の改善，③心身の疲労の回復を図るための施設・設備の設置・整備(疲労回復施設等)，④職場生活において必要となる施設・設備の設置・整備(生活必要施設)——に分類した。上記の4つに該当しないものは，⑤その他に分類した。

職場環境の問題点[図1]として，①作業環境の管理が2番目に多く(回答数136)，1番多かったのは⑤その他であった(回答数218)。②作業方法の改善(回答数11)については，工場労働者からの回答が多かった。③疲労回復施設等(回答数10)については，休憩室がない，休憩室が狭い，横になれる場所が欲しい——であった。④生活必要施設(回答数21)では，便所についてが多かった(回答数10)。数が少ない，汚い，臭いとの回答があった。特に，女性からは，それぞれ男子便所と女子便所に分けて欲しいとの回答があった。また食堂についても多く(回答数8)，まずい，メニューが少ないであった。

①作業環境の管理の問題点の内訳[図2]は，温熱条件，空気環境，視環境，音環境，作業空間の順であった。最も多かった温熱条件(回答数42)では，夏の暑さ，冬の寒さについての回答が多かった。工場労働者から，空調設備を設置して欲しいとの回答が多かったが，空調設備のある事業場でも空調の温度調整についての不

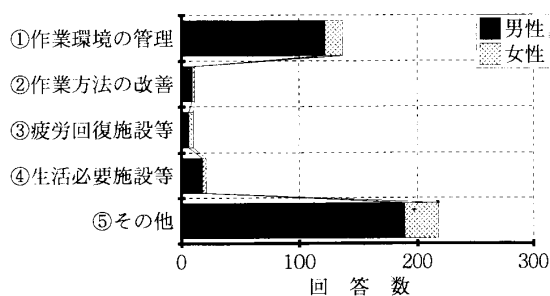


図1 職場環境の問題点

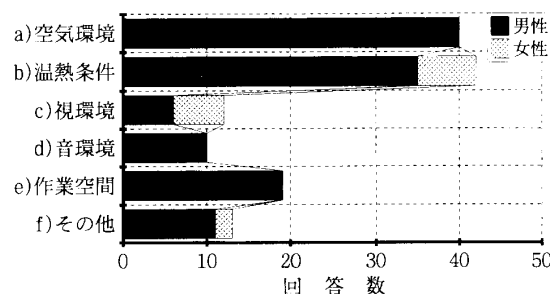


図2 ①作業環境の管理の内訳

満が多かった。また，節水，節電で空調が稼働していないとの回答もあった。特に，女性からのクーラーが効きすぎるとの回答が目立った。次いで，空気環境に関するものが多く(回答数40)，喫煙に関するものが目に付いた。くわえタバコで歩き回る，受動喫煙，禁煙タイムや禁煙場所を守らない，分煙をして欲しい等——喫煙に対して否定的なものが大部分であったが，たばこがすえる場所が年々狭くなっていると喫煙者からの不満もあった。視環境(回答数12)については，VDT作業での照明が不適切，照明が暗いとの回答があった。音環境(回答数10)では，コンピュータ関連機器(プリンター，冷却ファン)の音，屋外からの騒音について回答があった。作業空間(回答数19)では，ほとんどが職場のスペースが狭いであった。

⑤その他の問題点の内訳[図3]では，人間関係(回答数68)が最も多かった。次いで，仕事量(26)，経営方針・理念(25)，通勤時間(18)，勤務時間(11)，休日(14)，給料(12)の順であった。仕事量では，量が多くてこなせない，仕事量が不平等である，仕事量が多いのに人手を削減された——等であった。経営方針・理念

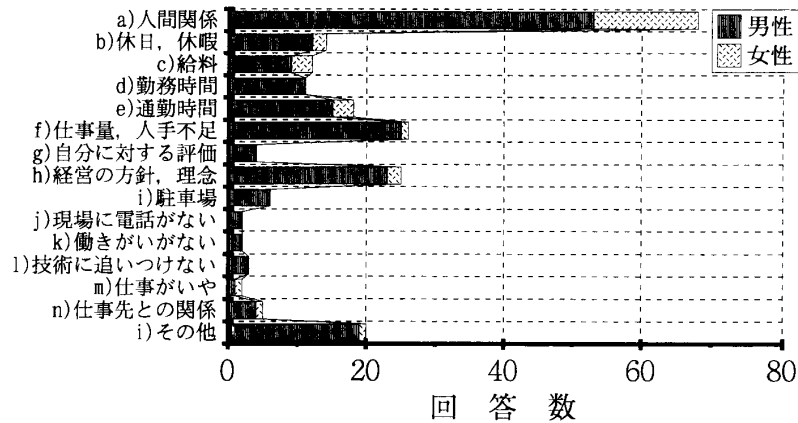


図3 【⑤その他】の内訳

では、経営方針がはっきりしない、方針がすぐ変わる、設備・人材投資に消極的、社会貢献をしていない——等であった。通勤時間では、通勤ラッシュ、公共交通機関がない等通勤に時間がかかるとの回答が多かった。勤務時間では、勤務時間が長い、サービス残業が多い、出勤時間が早い——等であった。休日に関しては、有給休暇がとりにくい雰囲気、休日出勤が多い、連休がとれない、という回答であった。給料に関しては、残業しないと給料が少ない、残業手当がつかない、仕事量に見合った給料ではない——等であった。

人間関係の問題点の内訳〔図4〕では、上司に対する不満（27）、同僚に対する不満（15）、部下に対する不満（6）が多かった。女性差別（3）と回答したのは女性のみであった。上司に対する不満の内容は、上司が仕事をしない、上司が部下に仕事を任せない、上司が部下を信頼していない、上司の顔を見るのもいや、部下に責任を押しつける——等であった。同僚に対する不満は、自分勝手な行動をする、小グループを作る、仕事に責任を持たない、チームワークを乱す人が決まっている——等であった。部下に対する不満は、部下（特に女性）がわがままである、部下が言うことをきかない、若い社員の考えがわからない——等であった。女性差別については、女性蔑視（待遇、給与）、何かにつけて男性優先、雑用ばかりさせられるとの回答であった。

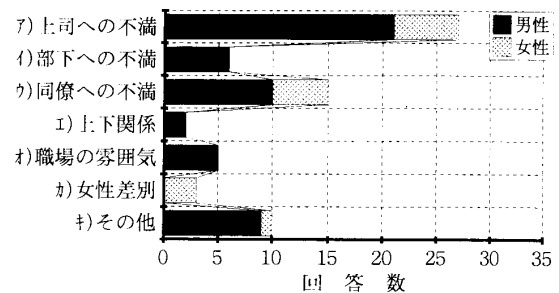


図4 【⑤-a）人間関係】の内訳

考 察

表1に快適な作業環境を形成するための快適職場指針のあらましを作成した。質問をこの表の事業者の講すべき措置に当てはめ、分類したわけであるが、この表に分類できないもの（⑤その他）が、55%あった。快適職場指針は、「環境（ハード面）」を整備することが中心であり、快適な状態を直接めざしているものではないと考えられる⁵⁾。たとえば、快適職場指針の通達³⁾では、③心身の疲労の回復を図るための施設・設備の設置・整備（疲労回復施設等）の中で、労働者が専門的に相談ができるように〔相談室〕を設けることとなっている。

環境管理に関する回答の中で、温熱環境に対するものが多かったが、特に空調設備があるにもかかわらず、温度調整についての不満が指摘されていることに注目した。たとえば、冷房が効きすぎるという回答が女性から多く出ていた。この原因として、快適温度に対する個人差——

表1 快適な作業環境の形成（快適職場指針のあらまし）

目標（措置）	事業者が講ずべき措置の内容	考慮すべき事項
作業環境の管理	空気環境：浮遊粉塵，臭気，タバコの煙と臭い 温熱条件：温度，湿度，輻射熱，気流 視環境：照明，採光，色彩，視対象物の輝度 音環境：騒音レベル，音色 作業空間：作業場所，通路，OA機器の配線，他人の視線，窓	継続的かつ計画的な取組 ①推進体制の整備 ②施設・設備等の管理のためのマニュアルの作成 ③職場環境を常時見直すこと
作業方法の改善	不自然な姿勢での作業：腰部，頸部等身体の一部または全身負担 相当の筋力を要する作業：荷物の持ち運び，機械設備の取扱・操作等 高温，多湿，騒音等の場所における作業：防熱，遮音壁，操作の遠隔化等 高い緊張状態の持続等が要求される作業：自動化，ロボット化，小休止，音学機器 一般的な機械設備，事務機器等を使用する作業：人間工学的配慮	労働者の意見の反映 個人差への配慮 潤いへの配慮（空間的，情緒的なゆとり；植栽の設置，絵画等の展示）
労働者の心身の疲労の回復を図るための施設・設備の設置・整備	休憩室等：臥床できる設備，空調設備，冷水機，適切な広さ，清潔，色彩，音楽，観葉植物 シャワー室，風呂等：洗身施設，温水 相談室，相談コーナー等：専門家による相談（疲労やストレスの相談） 運動施設，緑地等：体育館，プール，テニスコート，フィットネス施設等	高齢者・女性等に対する配慮
労働者の職場生活において必要となる施設・設備の設置・整備	洗面所，更衣室，トイレ，ロッカー等 食堂等 給湯設備，談話室，喫茶コーナー，音楽鑑賞室，娯楽室等	個人の尊重とコミュニケーション等の調和 省エネルギー・環境保全との調和

注）下記のものから作成した。

- ・労働安全衛生法第71条の2 快適な職場環境の形成のための措置；事業者の講ずる措置
- ・労働省告示第59号（平成4年7月1日）事業者が講ずべき快適な職場環境の形成のための措置に関する指針
- ・労働省基発第392号（平成4年7月1日）「事業者が講ずべき快適な職場環境の形成のための措置に関する指針」について
- ・快適職場のあり方に関する懇談会報告書（平成3年11月）快適職場の実現に向けて

年齢差，性差———が大きいことが考えられるが，一方，湿度調整がきちんとできていない冷房が多いことも一因ではないかと考える。空気をそのまま冷やすと，空気中の水分量（水蒸気圧）に変化がないので，温度が低くなった分（飽和水蒸気圧が小さくなる）だけ，空気中の相対湿度（ $=[\text{空気中の水蒸気圧}] / [\text{そのときの温度の飽和水蒸気圧}]$ ）が上昇することになる。汗をかきながら外部から部屋に入ってきた人にとって，このように湿度が高い状態であると汗が乾きにくい，汗が乾きにくいと蒸発による潜熱交換が期待できない。すなわち，汗が乾かないからあまり涼しく感じない。したがって，設定温度を低くしがちになる。部屋の中に長時間いる汗をかいていない人にとっては，湿度よりも気温が支配的であるので，寒くて冷房が効きすぎることになる。座って作業する人や，立

作業をする人や，出入りの多い営業マン等が同居している空間では，湿度が高いと寒いけれども涼しくないという状況が起こり得る⁹⁾。快適な温熱環境を確保するためには，温度と湿度を両方コントロールする必要がある（湿度コントロールにはさらにエネルギーがかかるが——）。少なくとも，冷風の吹き出し口，窓や壁からの輻射熱，窓および出入口からの外気の流入——と机との位置関係を考慮する必要がある。

快適職場は，事業場が自主的に考えて実施するものであるが，快適環境のための「環境（ハード面）」の整備のためには，労働大臣登録の労働安全衛生コンサルタントや作業環境測定士を人的資源として利用できる。

一方，職場指針の目標（措置）に当てはまらない回答に着目すると，そのうち，人間関係や職務満足に関するものが最も多く，通勤時間，

仕事量、働きがい等が回答に含まれている。「快適職場指針」では、「仕事による疲労やストレスが蓄積されることのない職場を快適職場ととらえている」²⁾。しかし、より快適な職場の確保のためには、「快適職場指針」から、さらに、踏み込んで、職場の人間関係、長い通勤時間、働きがいといった問題についても検討する必要がある。これからの職場は、これまでも増して働く人の自己実現、能力の発揮できる場となるべきである。すなわち、快適職場は、贅沢で見栄えのいい職場ではなく、働く人が満足度の高い仕事のできる職場、各人の創造的能力が最大限に発揮される活性化された職場と考えることができる。快適職場指針は、そのための基礎的条件といえよう。快適職場を実現するためには、「快適職場指針」の実現に加えて、具体的に人間関係などの問題点を解決できるような仕組み

(ソフト面；人的資源)が必要と考える。快適職場を形成するためには、物理的な環境の整備に加えて、これら以外の問題——人間関係、集団中の個人差、職務満足——等の問題に対処できる人的資源として、産業ソーシャルワーカーの活躍が必要と考える。

謝 辞

稿を終えるに当たって、調査の実施の際に、協力いただきました高島労働安全衛生コンサルタント事務所の高島正俊所長、㈱セーフティ岡山の宮原文雄社長および質問に答えていただいた方々に深く謝意を表します。

この論文の一部は、日本人間工学会中国・四国支部第27回支部大会(1995)で発表した。

文 献

- 1) 労働安全衛生法第7章の2 快適な職場環境の形成のための措置。
- 2) 労働省告示第59号(1992) 事業者が講ずべき快適な職場環境の形成のための措置に関する指針。
- 3) 労働省基発第392号(1992) 「事業者が講ずべき快適な職場環境の形成のための措置に関する指針」について。
- 4) 快適職場のあり方に関する懇談会(1991) 快適職場のあり方に関する懇談会報告書 — 快適職場の実現に向けて —。
- 5) 宮尾 克(1993) 快適職場の指針について。労働衛生管理, 4(1), 22—27。
- 6) 久野 覚(1993) 寒暑と涼暖。快適環境の科学, 朝倉書店, 東京, pp43—56。